

青森県次世代自動車充電インフラ整備ビジョン

積雪寒冷地という地域特性を考慮し、冬期間の航続距離の低下にも配慮した効果的な充電インフラの配置となるように、国道・県道、市町村、道の駅・商業施設・観光施設など、279基の設置を目指す。

# 北国での実用にも堪える 独自のコンバートEV開発で 地域の産業振興も見据える



上:パパートタイム4駆を採用し、暖房は「FF式灯油ヒーター」を採用した「北国でもしっかり走るコンバートEV」 下:ガソリンの給油口にプラグを装着

## 現状

### 導入台数はまだ4割

2013年3月のEV・PHVの普及台数は399台(EV229台、PHV170台)で、目標の4割の達成率にとどまる。充電インフラの整備状況急速充電器19基、普通充電器81基が設置済みで、急速充電器設置数では目標値をクリア。

## 目標

### 2013年度までに1000台

2009年6月策定のアクションプランでは、2013年度までにEV・PHV合計1000台が目標。充電インフラは「EV・PHV充電サポーター」を募集し、急速充電器10基、中速・普通充電器100基の普及を目指す。

Condition

Target



道の駅しちへの急速充電器で充電中のEVバス。購入費用の約半分は、国と県の補助金

## 寒冷地域でのEV普及に向けた コンバートEV開発の取り組みや EVバスの使用も継続中

### 東

北・北海道エリアで唯一EV・PHVタウン構想に選定されている青森県では、冬季の積雪と寒さに対応できる性能を持った独自のEV開発が行われている。県内の産学官金が一体となって立ち上げた「あおもりEV・PHV関連ビジネス研究会」のメンバーであるササキ石油販売が中心となって、2013年3月にプロトタイプ

が完成したのが「北国でもしっかり走るコンバートEV」である。雪道走行で威力を発揮する4輪駆動に加え、暖房の使用による電費の悪化を防ぐためにFF式灯油ヒーターを搭載するなど、随所に北国仕様のアイデアがあふれる。技術的な部分は静岡県のタジマモーターコーポレーションの開発協力によるが、このコンバートEVが低価格で実用化されれば、寒冷地でのEVの普及促進が大きく進む可能性は高い。

環境エネルギー推進に積極的に取り組む七戸町は、県内屈指のEV・PHV普及に前向きな自治体だ。国と県の補助金を活用し、EVバスを購入してコミュニティバスとして市内を循環させているほか、軽トラのコンバートEVを導入して農業でのEV活用について実証モニターなども実施。今後は中古の軽トラにバッテリーを積む技術を町内の整備工場などに習得してもらい、町内の産業育成につなげたいという構想も持っている。

## 今後の展望

### 北国EVの開発に期待

冬季の厳しい自然条件に対応できる性能を有するEV・PHVの開発に向けて、官民がビジネス研究会を立ち上げて北国独自のコンバージョンEVの開発も進行中。大手メーカーと競合しない隙間分野での使用を前提としたEV開発にも期待。

## 利用者の視点

### EVを活用した観光

県内に十和田湖・奥入瀬渓流という景勝地があるため、環境保護の視点からもEVバスの導入やマイカー規制の試みなど、EVを活用した観光に向けたアクションに積極的に取り組む自治体が見受けられるのは心強い。



八戸市の東北自動車が製造した軽トラのコンバートEV

Vision

Userseye